

マーケットの動き（2026年2月2日～2月6日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいでした。

週前半は、米長期金利の上昇に加え、3日に実施された10年債入札がやや弱い結果と受け止められたことなどを背景に金利は上昇しました。一方、週後半は、5日の30年債入札が市場予想を上回る結果となったことなどが好感され、長期債にも買いが入り金利は低下しました。

クレジット市場は、金利変動が大きいなか、やや軟調基調となりました。

投資環境見通し（2026年2月）

国内長期金利に対する上昇圧力がかかりやすい

日銀は、1月の金融政策決定会合で政策金利の据え置きを決定し、同総裁は国内長期金利の動きについて「かなり速いスピードで上昇してきている」と指摘するとともに、「例外的な状況では機動的にオペを実施することもある」と述べました。今回の利上げ局面での政策金利の到達水準が上昇しているとの見方が広がる中、政府による財政拡張方針を背景とした国債の需給に対する懸念から、国内長期金利は引き続き上昇圧力がかかりやすいとみています。ただし、今後の政策対応も見込まれることから、今後の上昇余地は次第に縮小するとみています。

	2月6日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	2.23	▲0.01	0.10	0.74	0.96
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	332.40	0.18%	▲0.65%	▲3.98%	▲6.31%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

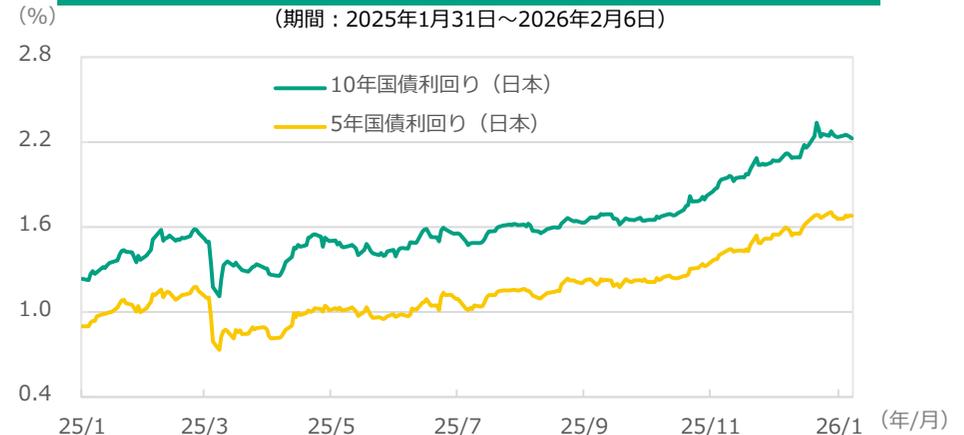
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202602_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

（期間：2025年1月31日～2026年2月6日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2025年1月31日～2026年2月6日）



※2025年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成